

# 「鎌倉殿の13人」関連コンテンツ 一覧

## 藤沢市内一覧

名称	ゆかりの人物	歴史・伝承等の紹介	コンテンツの紹介
宗賢院	大庭景親	宗賢院の所在する谷戸の字を「隠里(かくれざと)」と言うが、この周辺に大庭景親の館があったと考えられている。	永正2年(1505)創建と伝わる曹洞宗の寺院。大庭景親が所蔵したと伝わる茶釜がある。
大庭城跡	大庭景親	【伝承】 江戸時代の頃から地元では大庭城は大庭景親の館を太田道灌が改修し城郭としたという伝承がある。 【史実】 扇谷上杉氏の築城と考えられる。城主で判明している人物は扇谷上杉朝昌。	昭和60年(1985)から大庭城址公園として市民の憩いの場となっている。公園管理事務所には大庭城の歴史がわかるパネル展示が常設してある。湘南地域の中では唯一残る戦国時代の山城。
伝義経首洗い井戸	源義経	【伝承】 文治5年6月13日に奥州衣川の館で打たれた源義経の首が腰越にて首実検された。首は実検後に打ち捨てられたが、その首が金の亀に運ばれ藤沢に来て、首洗い井戸で清められたとの伝承がある。	井戸を含む周辺は現在公園となっている。建物に挟まれたこじんまりとした公園だが、市民の憩いの場となっているほか、歴史ウォーキングの見学スポットとしても活用されている。
白旗神社	源義経	神社の創建は不明。寒川比古命、源義経を主祭神として祀る。	6月13日には源義経の霊を鎮める「源義経公鎮霊祭」が、10月28日には藤沢市重要無形民俗文化財である湯立神楽がおこなわれている。境内には令和元(2019)年に源義経・武蔵坊弁慶主従の銅像が落成した。
江の島	源頼朝 北条時政 足立遠元 畠山重忠 結城朝光 文覚	【史実】『吾妻鏡』によれば、養和2年(1182)4月5日に源頼朝をはじめ北条時政、足立遠元ら御家人を引き連れ江の島に来島している。またこの際弁財天を勧進し、鳥居を建てている。あわせて文覚に命じ藤原秀衡の調伏をおこなっている。 【北条時政の家紋伝説】北条時政は子孫の繁栄を願い江の島に参籠していると、夢の中に龍の化身の女房が現れ願いを聞き入ると告げたのち身を海に投じた。起きた時政は手元に3つの鱗があったことから、これを家紋とした。	江の島には江島神社があり、辺津宮境内の奉安殿には鎌倉時代初期の作と考えられている国重要文化財の八臂弁財天御尊像と鎌倉時代中期の作と考えられている市指定重要文化財の妙音弁財天御尊像が安置されている。
江島神社	北条時政	江の島神社の社紋は、北条家の家紋「三枚の鱗」伝説にちなみ考案されたもので、「向い波の中の三つの鱗」を表現している。	江島神社は辺津宮、中津宮、奥津宮の総称で、三姉妹の海の女神(海の神、水の神、幸福・財宝を招き芸道上達の功德を持つ神)を祀る。辺津宮の境内にある奉安殿には国の重要文化財に指定されている八臂弁財天や市指定重要文化財に指定されている妙音弁財天が安置されている。
江の島岩屋	北条時政	「太平記」によると、1190年に北条時政が子孫繁栄を願うため、江の島の御窟(現在の江の島岩屋)に参籠したと伝わっている。	富士山の氷穴に通じるともいわれる、江の島の最奥部にある海食洞窟。古くから信仰の対象とされ、弘法大師や日蓮聖人も修業したといわれる。
長後天満宮	源義朝 源頼朝	渋谷重国の祖父である河崎基家が、居館の一角に天満宮を祀ったことが神社の始まりと伝えられている。	この天満宮の北側には長後天神添北遺跡・長後天神添南遺跡という2つの遺跡があるが、そこからは鎌倉時代の遺物や武士の居館の一部と考えられる堀が見つかっている。